



聖鋏会報

発行所
北海道立農業大学校
同窓会

中川郡本別町西仙美里25-1
電話 0156-24-2122
編集事務局

どうして農家になったのですか？



北海道立農業大学校同窓会

会長 津島 朗

同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。先日地元の中学校の先生から、生徒が農家の方に質問が数問あるのですがというファックスが入り、快く答えました。

その中の質問で、「どうして農家になったのですか？」というものがありました。

農業に取り組むかどうか、正しく判断するためにまず、農業を勉強しました。そこでは、農業とは、食糧を生産することであり、これからの世界ではますます重要な産業になっていくことを学びました。農業には流通業、加工業、販売業、改良開発機関、指導機関、

農政、各農業団体等、農業を中心にいろいろな方々が支えあって成りたつていくこと。また農業大学校では、同じ仲間たちが、集まること、応援してくれる先生がたがいることが、励みになったことを答えました。

同じ農業大学校を卒業した方々がより励ましあえれば良いと感じています。今後とも同窓会にご理解、ご協力をお願いいたします。

期別世話役

〈農講〉2 鈴木一義 / 5 菅谷誠・渡辺善信 / 8 植田博 / 10 森山睦美 / 11 大平清

吉 / 13 辺見政孝 / 16 小南和夫 / 17 佐川満 / 18 吉田甫 / 19 西山利昭 / 20 河田裕 / 21 相沢勲 / 22 石川眞清 / 23 松崎文一 / 25 仲鉢昭夫 / 27 芳澤改治

〈農大〉1 川本秀二 / 2 和田嘉晴 / 3 塩村昭博 / 4 石丸博雄 / 5 高井正行 / 6 道下貞夫 / 7 笹島喜郎 / 8 岩井敦史 / 9 井出和実 / 10 富山和也 / 11 石原英之 / 12 森本耕二 / 13 宮本茂行 / 14 牧村康弘 / 15 小松洋一 / 16 遠山昇治 / 17 田村直樹 / 18 大碓晋二 / 19 近藤大樹 / 20 三田浩司 / 21 佐藤昭徳 / 22 熊谷直哉 / 23 田中真理子 / 24 塚田秀則 / 25 齋藤かおり / 26 日光純一・渡邊基樹 / 27 柏葉宏樹・嶋貫一也 / 28 鈴木隆也・中澤光太郎 / 29 今西大和・今野大吾 / 30 山木秀幸・佐藤貴文 / 31 中澤好喜・幕田桂一 / 32 黒川昌毅・若木章宏 / 33 廣瀬正幸・下田奨 / 34 毛房智幸・原田宏幸 / 35 谷川和樹・那賀島充人 / 36 大友詠吉

・喜多真悟 / 37 高橋裕貴・柴田悠
〈農大福作〉1 吉田和浩 / 2 大江博之 / 3 穴戸聖 / 4 平塚美明 / 5 水嶋淳・伊藤優治 / 6 石川英樹 / 7 嶋田雅虎 / 8 泊り雅幸 / 9 石崎憲一 / 10 富樫孝 / 11 岡村博信 / 12 平隆之介 / 13 吉見拓也 / 14 吉村正之 / 15 森勇貴 / 16 石川大輔 / 17 竹内誠 / 18 岡岡晃平 / 19 中山義之 / 20 外山隆祥 / 21 下道達也 / 22 黒田直樹 / 23 久保田和伸 / 24 佐々木智彦 / 25 加茂貞

〈農大研究〉1 内野康晴 / 2 加藤幸嗣 / 3 木村晴美 / 4 山岸淳 / 5 中西崇継 / 6 今西大和 / 7 仁井邦夫 / 8 鈴木健司 / 9 佐藤直哉 / 10 富永浩貴 / 11 上村優太 / 12 小崎光

農大トピックス その一 共進会出品にぎわった畜産一年

平成二十四年は、乳牛、肉牛（黒毛和種）ともに共進会の出場が多く、計五回の共進会に出品しました。六月に開催された、本別町家畜品評会を皮切りに、七月、八月に開催された十勝総合畜産共進会（肉用牛の部と乳牛の部）、九月には全道肉用牛共進会に出品し、そして、十一月には北海道ホルスタインウインターフェアに出品しました。

肉用牛（黒毛和種）では、町の共進会にて最高位、十勝の共進会では一等三席、そして全道の共進会では二等二席という輝かしい成績を収めることができました。乳牛は、上位入賞にはならなかったですが、学生達の貴重な経験となりました。

来年度は、今年以上の成績を狙うため学生達は今から活動に入っています。



本別町家畜品評会にて最高位受賞

豊穣の秋を迎えて



北海道立農業大学校

校長 加藤 和彦

今年も収穫の秋が終わり、長い冬を前に、さて来年はどのような年にしようかと思案を始めている今日この頃ですが、同窓会の皆様は如何がお過ごしでしょうか。

今年は大きな気象災害もなく、特に秋は記録的な暖かさだったということ。農大でも春先の蒔きつけの遅れを取り戻し、言葉どおり豊穣の秋を迎えることができました。不肖私も4月に農大に赴任してから、庭でささやかな素人菜園に取り組みましたが、夏以降は野菜に不自由することがない毎日が続き、今年の気象に感謝しています。校内に数本あるリンゴと梨の木にも全く自然任せで手をかけていないにもかかわらず、たくさんの実がなり、学生達のよいおやつになっていました。これは将来の地球温暖化を先取りした姿かもしれません。

五月の強歩大会に始まった本校の行事も、七月の農大祭、十月の農大市等々町内外から多くのお客様をお迎えして盛大に行うことができました。

農大祭では福島農大に牧草ロールを送るためのカンパに多くの方々から支援をいただき、無事に送ることができました。学生達も自分たちで発案した福島に牧草を送ろうということから出発したこの取り組みを通じて多くのことを学ぶ事ができたと思います。

初々しく入学してきた一年生も農大での学校生活や一ヶ月の体験学習などを経て、肉体的にも精神的にも一回り成長してたくましくなりました。

いずれにしても、同窓会の皆様の激励を聞くと、開校以来六十七年間連続として続いている、明日の北海道農業を担う若者達を育てるといふ本校の指名の大きさをひしひしと感じながら、今日も職員一同気を引き締めながら学生達と向き合っています。

同窓会の皆様には、今後とも変わらぬ暖かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

農大トビックス その二

農大産有機農産物の販売 in 札幌
畑作園芸経営学科2年 中城 杏菜

十月二日〜三日にかけて畑園の有機部三名は札幌研修に行きました。農大産のにんじんと馬鈴薯を有機農産物を扱っているお店「らる畑」さんで対面販売するためです。

直接お客さんに販売を行い、それだけでなく有機農産物を扱う他のお店も見学したり、お店の方やお客さんのお話を聞くこともできました。有機農産物を買うに来るほとんどの方は安心・安全の食べ物を探しています。有機農産物に限らず、私たちは食べてくれる人の気持ちを考えながら農産物を作ることが大切だと改めて感じました。今回は普段できないようなとても貴重な体験ができ、協力してくださった方々に感謝しています。これからも日々成長できるように頑張りたいと思います。



札幌「らる畑」での販売実習

農大トビックス その三

異業種研修で道外農業などを視察

稲作経営専攻コースの二年生は、八月二七日から三一日の日程で、沖縄、東京、新潟の視察研修を行いました。

研修では、米どころ新潟の米作りについて直接生産者から話を聞き、酒造会社や手焼きせんべいなどコメの加工について勉強しました。また、北海道と違う農業を勉強するため、沖縄ではマンゴーやゴーヤなどの栽培を学び、管理作業等を行いました。さらに、道産の農産物の道外での流通状況の調査やコンピュータ関連の最新技術について視察を行いました。

拓殖短大の夏休み期間中は、今回の研修を始め、先進農家での体験学習や農大での集中講義など過密スケジュールでしたが、十名全員元気に各行事をこなし、知力・体力の向上を図りました。就農後は今回の研修を活かし、頑張っていってほしいと思います。



沖縄の市場で農産物の違いを学ぶ

同窓生の広場

『農の力』



畑作経営学科
十一期生
平 和男

(新得町)

ファームステイで修学旅行の高校生を受け入れています。

どの生徒も北海道での農作業体験は初めてで不安もあるのですが、それでも生徒自身が収穫、選別したものを生徒自身で調理して食することに新鮮な魅力と大きな感動を胸に、笑顔いっぱい帰っていきます。

でも：中には、自己紹介の時に「基本、やる気がない」と思ってもらって「つこうです」なんて言う変わった子もいました。色々聞いてみるとその彼曰く「やることなすこと（勉強も遊びも）全て面倒くさいです」とか「大人たちが決めたことだから仕方ないですが、修学旅行もあまり来たくなかったです」とか：もちろん彼女なんていません。（じゃあ、いったい何を楽しみに生きてるの？）「でもさ、せつかく来たんだから何か楽しんじゃおうと思っただ方が生産的じゃないか？」なんて説教じみると「それはそうですねけど：でも、人それぞれですから」ときたもんだ。

まったく今時の若者ときたら（怒）：いや、ちよつとまでよ、自分達は彼らくらいの時はどんなだったけ？そ

ういえば“新人類”なんて揶揄されていたな：ということは彼らは新人類ジュニア？ゆとり世代？そんな事を鬱々と考えながら、馬鈴薯の入ったミニコンテナ（約20kg強）を持ち上げることもできずに超ヘッピー腰で悪戦苦闘している彼らを見て「大丈夫か、若者！？大丈夫か、日本！？」と思うと同時に「大丈夫か、若者を育てる大人達！？」と自戒してしまうのです。

彼一号「今日ほんま辛かったな」（基本やる気ないです）の彼
彼二号「辛かった：」（彼二号は極度の人見知り、ホストファミリィとほとんど会話できず）
彼一号「芋って、ほんま重たかったな」
彼二号「めっちゃ重たかった：」
彼一号「あれを毎日やらなあかんとなると辛いな」
彼二号「辛いな：」
彼一号「：でも、ちよつと楽しかったな」

彼二号「：そやな、楽しかったな：」
たぶん彼らの修学旅行の一番の思い出は自分達がはじめて作ったカレーでもなく、満天に輝く秋の星座たちでもなく、辛くもあり楽しかった農作業だったことでしょう。

若者たちの命を育む食が、厳しいけど尊い環境で生産され、しかも楽しく豊かな心を創っていきけるのだとしたら：「農」の力を信じてワクワクしながら、これからも若者達と出逢ってみたいと思うのです。

あの楽しかった農業大学校を卒業してより、早五年が経ちました。農大三十三期生のみんな、そしてお世話になった先生方、元気にしておられますでしょうか。かつて共に牛に向き合い、勉学に実習と切磋琢磨したあの頃は、今も私の背中を押してくれる心強い経験となり、心の励みになっています。

皆さんに感謝を込めて



ひら農園でのファームステイ受入



畜産経営学科
三十三期生
長谷川 一美

(別海町)

するものでした。今、こうして農大時代を振り返ると、あの頃がついこの前のような気さえしてきます。

現在、今年六月に自分は、当時の実習班で一緒になった同級生と縁あつて結婚することが出来ました。結婚式には会場が小さかったこともあり、一部の友人しか呼べなかつたのですが、二次会では多くの仲間達が集まり、貴重な時間を過ごすことができました。

また、彼女と出会うきっかけをくれた農業大学校では、二人の強い希望でウエディングプランナーさんの協力のもと、結婚の記念写真を畜舎や草地など、様々な場所で撮らせて頂きました。お忙しい中の突然の相談、だったのにも関わらず、快く受け入れてくださり本当に有難うございました。

今後もお世話になった方々への感謝を忘れず、向上心をもって日々努力していきたいと思えます。

特に、友人達の持つ個々の自由な考えや、将来の展望、経営方針などの話は、自分の感性や考え方に大きく感化



新郎 一美さんと 新婦 妙音さん

新しい仲間

卒業、就農して



畜産経営学科
三十七期生
高橋 裕貴
(本別町)

三十七期生の皆さん、お元気ですか？早いもので農業大学校を卒業し、半年以上の月日が経ちました。就農した方や就職・進学された方などそれぞれの道へ夢へと向かって進んでいることと思います。

私は、今年の春農大を卒業し実家に就農しています。就農一年目は、覚えることがたくさんあり、まだまだ慣れない作業に、悪戦苦闘しています。また、実家での作業はどこか寂しいと感じることがよくありました。それは、農大での生活が楽しく充実していたからだと感じています。振り返ると、あつという間に二年が過ぎました。実習やプロジェクト活動などを通して、学んだ基礎知識や実践的な技術、また寮生活で築いた仲間との絆が大切な物だと改めて、実感しています。

今後は、今年一年の反省を生かしつつ、農大で学んで来たことを少しずつ実践していきます。また、全道にいる三十七期生の皆さんとの交流を大切に、頑張っていきたいです。

卒業してから



畑作園芸経営学科
三十七期生
柴田 悠
(訓子府町)

皆さん、お久しぶりです、柴田です。農大三十七期生の皆さんいつも仕事お疲れ様です。卒業後元気に過ごしていますか？私は元気にしています。もう卒業してから半年以上の月日が経ちましたね。今年の農作業もそろそろ終わりに近づいているのではないのでしょうか。

就農一年目の農作業はどうでしたか？私は仕事をしていても周りが静かで寂しくなる時がありました。農大生活を今思うと、勉強や実習がつかい時もありませんが、みんなと一緒に力を合わせて取り組んだことは大変でしたけど、楽しかったです。その時に学んだ知識と技術は、今の私の為になっています。

不安があつた就農一年目は、思った通りに作業がこなせず大変でした。農大で勉強しても、まだ沢山わからないことがあり、農大の延長だと感じました。作業では、上手に播種や植付けが出来ても、その後の天候による対策が大事であることを改めて自家で作業し、思いました。

今後は私が作業を理解して動き、作業効率を上げ、安定した品質・収量を目指していきます。そして、畑園の皆さんと共にこれからの農業を支えていきたいと思っています。怪我だけには気を付けて！

就農して



稲作経営専攻コース
二十五期生
加茂 貢
(中富良野町)

私は委託生として主に拓殖短大で講義や実習を受け、他に年二回農大で集中講義があり農業簿記や経営の基礎を学び、実際に自分の家の経営分析をしたことで就農してから経営について少しずつ考えられるようになることができました。

二年間の学生生活は瞬く間に過ぎていきましたが、勉強したことや体験したことはとても良い経験となりました。また、学校生活を通して拓殖短大の同じ科の様々な農家の後継者と仲良くなり、将来の仲間作りが出来ました。特に稲作経営専攻コースの仲間達とゼミ活動や集中講義を一致団結して成し遂げたことで一回り成長できたと思っています。

現在は、水稲の収穫作業を共同で行い、その後の再乾燥をしています。収穫作業はコンバインに乗るのが初めてで、慣れるまでに苦労しましたが、周りの人に優しく教えてもらい何とか終わることが出来ました。

これからは、仕事をもっと覚えて早く一人前の農家になり自分から仕事を進めることができるようになりたいです。そのためにも農作業の一つ一つの意味を理解して、将来経営していける力を身に付けていきたいです。

卒業、その後：



農業経営研究科
十二期生
小崎 光
(湧別町)

皆さんいかがお過ごしでしょうか。農大を卒業してから半年以上がたち、今年の農作業も無事に終わりに近づいています。一シーズン通して自家の作業を体験し、農業の奥深さを実感しているところでもあります。

私は五年間農大に在籍しました。今思うと農大時代の実習や寮生活が非常に懐かしく感じています。五年間で数多くの人に会えることが出来ました。その人たちが自分を成長させてくれました。その感謝を感じながら毎日過ごしています。

農大時代にはプロジェクト活動や農大祭、海外研修など様々なことに挑戦してきました。それらの経験が自分の最高の宝だと思っています。これから両親や地元の先輩方の指導を受けつつ、チャレンジ精神を忘れずに日々挑戦して行こうと思っています。

同期のみんなへ
遠い場所からみんなの健康と商売繁盛、そして良いお嫁さんと早く結婚できることを願っています。来年度中には同窓会を開く予定なので参加よろしくお願ひします。

期別活動

農大二十三期生同窓会

幹事 仁木 儀一
白鳥 孝治

平成二十三年二月十八日、札幌市定山溪ビューホテルにて同窓会を催し、当時の畜産学科の担任であった香沢淳先生を含め十九名の参加をいただきました。

在学中、校庭周辺の整備や新築の校舎が建てられていく様子を横目に過ごした僕は、旧校舎の最後の卒業生として歴史の節目を味わいました。あれから十四年が経ちそれぞれの環境も変わりましたが、当時の冷え切った校舎



での思い出や、若気の至りで夜な夜な抜け出した公言できない話は尽きず、また地元での青年部や様々な団体での活動、仕事や家庭、一部では熱い恋愛相談など夜更けまで続きました。情報交換の場として、またお互いを支え合う仲間として楽しい時間を共有できたと思います。

仙美里での二年間で培ったパイプをさらに太く短くし、次回の同窓会をさらに盛大に充実させ、また旧校舎での思い出を肴に酒を飲み交わしたいと思いません。そしてまた恋愛成就のすべを探っていったら幸いです。皆さん、次回の同窓会でまた会いましょう。ありがとうございます。

畑園三十五期生同窓会

川上 慎太郎

同窓生の皆さん、並びに在校生、学校関係者の皆さんこんにちは。お元気ですか？

私たち畑園三十五期生は、平成二十四年三月二十日に同期生 遠藤俊君の結婚式後、網走で同期会を開催しました。

私は昨年ニュージラランドへ研修に行っていたため、久しぶりに会う人が多く、とても懐かしく、嬉しい気持ちになりました。

いざみんなで飲み始めると、農大の血か何かが騒ぎだしたのか、大変な盛り上がりを見せました。卒業しても集まれば昔のように騒げ



畑園三十六期生同窓会

板垣 健人

皆様、ご無沙汰しております。私は畑園三十六期生であります板垣健人と申します。

あの同窓会以来皆さんいかがお過ごしでしょうか？私は農業者二年目という事で二年目のジंकクスを感じさせない日々を送っております。今こうして実際に農業という職業について改めて思うことが多々あります。それは今まで外から見えてきた我が家と、現実の我が家とのギャップです。特に父や母がこれまで営んできた農作業や、家事も一緒になって加わってきたのですが、自分が今まで思っていた以上にハードで、大変さを体感しました。

しかしつらいことばかりなわけもなく自分で考えて仕事をする楽しさ、作業一つ一つをこなすたびに得られる充実感、そして、畑の作物が全てなくなる収穫期を終えた後の達成感は、格別でした。まだまだ半人前ですが一年でも一日でも早く、立派な経営者として、両親から全てをたくされる日を目指して皆さん一生懸命明日への一歩を踏み出そう！失敗したり、上手くいかず落ち込んでいるときあのころが懐かしく寂しくなったとき、俺たち三十六期生を思い出し、時には互いに連絡を取り合い、同じ未来の農業を担ってゆく者同士助け合い情報交換をし、切磋琢磨し頑張っていこうじゃないか！みんな最高の農民ライフを送ろうぜ。

余談はこれくらいにしておきます。





北海道立農業大学36期生畑作園芸科同期会

本題に戻りますが、一月二十八日、二十九日に十勝川温泉で三十六期第一回同窓会というわけだったので、我々の他、お世話になった普及員の方々にもご出席いただきありがとうございました。宴の席では、楽しくお酒を注がれながらみんなの笑い声が響いていた印象が強いです。学科長の喜多君をはじめとした幹事の皆さんご苦労様でした。また今回はほぼ100%の出席率

ということと絆の強さが三十六期生だと改めて確信できて良かったです。それでは、時間となりましたのでペン置きです。次に同窓会を開催するときは、今回以上により思い出が作れるようにし、全員が参加してくれるように頑張りたいです。

事務局からのお知らせ

- 1 会費・寄付金の徴収について**
昨年の総会の結果、三年に一度徴収していた会費を、当面、集めないことになりました。なお、寄付金については随時、受付をしております。入金先は以下の通りです。
郵便振替口座 〇二七〇〇一五二五七一一七
加入者名 北海道立農業大学校同窓会
- 2 住所の変更について**
引越等、住所が変更になった場合は、同窓会事務局までお知らせ下さい。会報の送付先を変更いたします。
- 3 支部活動・同期会の助成について**
支部活動及び期別活動を計画された際には同窓会事務局までお知らせ下さい。諸経費の一部を助成します。活動の様子は、ホームページや会報等で紹介させていただきます。
- 4 「同窓生の広場」への投稿について**
事務局では聖蹟会報「同窓生の広場」への投稿を受け付けています。投稿される方は事務局までお気軽にご連絡下さい。
- 5 同窓会ホームページについて**
同窓会ホームページでは、同期会・支部会開催のお知らせ、開催結果、そ

の他活動等についてなどがございましたらホームページにて紹介させていただきます。事務局までお知らせ下さい。
URL <http://nodai.sakura.ne.jp/>
メール: nodai_kyomu@pref.hokaido.lg.jp

6 農業大学校・同窓会からのお知らせ
農業大学校および同窓会では、卒業生のホームページの情報をお待ちしております。ホームページをお持ちの方で、農業大学校・同窓会のホームページからリンクを張っても良いという方は、卒業年（および第〇期か）、学科お名前、ホームページのURLを添えて、前項目のメールアドレスまでご連絡下さい。

編集後記

今年のカレンダーも残り一枚となり、同窓会の皆様におかれましてもますますご多忙のことかと存じます。
秋作業でお忙しい中、原稿をご執筆頂きました会員の方々に厚く御礼申し上げます。
農業大学校でも二年生のプロジェクト発表会が終わり、青森県で開催される東日本プロジェクト発表会への代表者が決定し、更に磨きをかけていくところです。
また十二月に時期が変わった海外農業視察研修に、畜産がオランダ、畑園がオーストラリアへまもなく旅立ちます。
新しい年も農業大学校及び同窓会にご協力をお願いします。(松)



北海道立農業大学校 平成26年度 学生募集

北海道立農業大学校では、平成26年度学生募集を次の通り行う予定です。ご子息や近隣の方に、農業大学校をぜひご紹介ください。お問い合わせ・資料請求は、0156-24-2122(教務課教務係)まで。

- 推薦入校試験 ・ 願書受付：平成25年9月18～28日 ・ 入校試験：平成25年10月8日(火)
 - 一般入校試験 ・ 願書受付：平成25年10月1～12日 ・ 入校試験：平成25年11月5日(火)
- ★オープンキャンパス 平成25年8月2日(金) オープンキャンパス以外の日の見学も可能です。